

文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)独立行政法人日本芸術文化振興会

# 京都観世会五月例会

令和4年5月22日(日) 午前11時開演 (午前10時開場)



主催 公益社団法人 京都観世会

〈能〉  
通小町

雨夜之伝

橋本雅夫

〈狂言〉  
附子

小笠原由禰

〈能〉  
羽衣

彩色之伝

古橋正邦

〈能〉  
雷電

大江泰正



## 会場 京都観世会館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44 (東山仁王門東入)

お問合せ・お申込み

☎ 075-771-6114

<http://www.kyoto-kanze.jp>

WEBサイトの公演情報からご予約が出来ます。



本公演は新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿った対策に取り組み開催致します。  
前売券は4月1日(金)より発売致します。

◆WEBで指定席が購入できます◆

一般前売指定席券 (1階)	8,000円	※webにて販売
一般前売自由席券	6,000円	
一般当日券 (自由席)	6,500円	
学生券 (2階自由席)	3,000円	

※通信講座受講生、放送大学、老人大学は一般料金です。

### 京都観世会館案内図



- ◆京都観世会館へは
- JR京都駅から—  
市バス[5][100]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車  
徒歩約3分 (乗車時間約30分)
- 地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」にて東西線に乗り換え  
「東山駅」下車 (乗車時間約20分)
- 阪急京都河原町駅から—  
市バス[31][46][201][203]で「東山仁王門」下車  
徒歩約5分 (乗車時間約15分)
- 京阪三条駅から—  
市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車  
徒歩約3分 (乗車時間約7分)
- 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約1分)
- JR二条駅から—  
地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約8分)
- 山科・醍醐方面から—  
地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約9~17分)
- 地下鉄東西線「東山駅」から—  
①番出口から徒歩約5分
- ◆東隣に有料駐車場(約20台)がございます。

# 京都観世会五月例会

## 後見・地謡

(能)

僧 福王茂十郎

大鼓 河村 大

小鼓 林 吉兵衛

笛 森田保美

主人 山本豪一

次郎冠者 泉 慎也

休憩二十分

(能)

漁夫 中村宜成

漁夫 白龍 福王知登

漁夫 喜多雅人

大鼓 山本哲也

小鼓 成田達志

太鼓 前川光長

笛 左鴻泰弘

休憩十五分

(仕舞)

雨月 中人前

鶺鴒之段

吉田 潔司

河村 博重

間

能力 小笠原由禰

充

大鼓 井林久登

小鼓 曾和鼓堂

太鼓 前川光範

笛 杉 信太朗

【お知らせ】  
当館ではアルコール消毒液の設置や、多くのお客様が手に触れる箇所には定期的に清掃・消毒を行っております。  
。「検温」「マスク着用」「咳エチケット」「手指消毒」のご協力をお願い申し上げます。  
。「発熱・咳など風邪症状のある場合は、ご来館前に医療機関にご相談ください。」  
。「字幕解説サービス」専用端末は千円(税込)にて貸出いたします。  
今後の状況の変化により、当日券販売の有無や催し物の内容変更または延期となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

## 解説

八瀬の山里で夏籠りをしている僧のもとへ、毎日木の実を届ける女があった。僧の問いに答え、木の実の数を語った後、実は私は市原野に住む姥、杖を叩いてはいいと言つて消え失せた。これは小野小町の幽霊であろうと確信した僧は、市原野へ赴き、その跡を弔う。小町の幽霊は再び現れ、僧の弔いを謝し、杖を授け給えと望む。と、その後より、杖を授けることはならぬ、はなれれと言ふ者がある。小町に心を寄せ、九十九夜までも小町のもとへ通い、終に命絶えた深草の少将の幽霊である。僧の所望に込め、百夜通いを再現してみせる少将。共に恋の妄執深き身ではありながら、少将が飲酒戒を保つた縁で、二人は成仏する。  
少将の百夜通いを「まなぶ」ことを軸にしており、大和申樂得意の「鬼」と「ものまね」の要素が色濃く残っている。また女をツレに伴い、恋の妄執を見せる「船橋」「女郎花」「錦木」などへの影響も興味深い。「鬼」から「霊(りよう)」

「修羅」「遊楽」などへと様々に発展してゆく原点のような曲である。

春の朝風が行き過ぎ、駿河国、三保の松原は不思議な空気に包まれた。そんな中、漁師の白龍は松に懸けられた美しい衣を見つめる。家へ持ち帰ろうとする彼に、声をかけた者があった。その衣の主、天人である。羽衣が無いと天上へ帰れないと歎き悲しむ天人の姿に、白龍も心動かされ、舞を所望して羽衣を返す。喜ぶ天人は羽衣を着し、「東遊の駿河舞」の初めと言う月宮の舞を舞う。そして天より七宝充滿の宝を降らして国土に与え、浦風に羽衣をたなびかせて天上へ帰っていった。  
【中入】  
宮中紫宸殿に坐して祈念する法性坊が油断した際に、雷神となつた道真が現れ、師のいる所を避けつつも稲妻を轟かせ、天皇の身を危うくするが、法性坊の法力によってついに調伏され、帝より天神と名を賜り、黒雲にうち乗って去つてゆく。

もつと嬉しがるようにと。道真は自分が筑紫で果てた後に師の坊が様々にして下さった弔いに感謝を述べ、師への慕情を切々と語る。そして、この世にて自分の望みは叶わなかったが、死して後、雷となつた身で内裏に飛び入り、仇をなした公卿共を蹴殺すつもりであると言ふ。その時宮中より加持祈禱のため召され、度動使が重なるなら自分自身は行かざるを得ないと言ふと、道真はにわか姿を鬼の如く変え、供えてあつた栴檀を噛み砕き吐きかけるとたちまち炎となつて燃え上がる。しかし、法性坊が酒水の印を結ぶと火は消え、その煙の中に菅丞相は消えてゆく。  
【中入】  
宮中紫宸殿に坐して祈念する法性坊が油断した際に、雷神となつた道真が現れ、師のいる所を避けつつも稲妻を轟かせ、天皇の身を危うくするが、法性坊の法力によってついに調伏され、帝より天神と名を賜り、黒雲にうち乗って去つてゆく。

【表紙写真】  
浦田保浩  
ウシマド写真工房撮影

お客様へお願い  
都合により出演者に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。  
許可なき写真撮影・録音・録画はお断りいたします。  
場内では携帯電話等の呼出音をお切りください。  
東隣に有料駐車場がございます。満車の際は岡崎公園市営地下駐車場をご利用ください。

次回予告  
京都観世会六月例会  
令和4年6月26日(日)  
午前11時開演

(能) 蟻通 河村 和重  
(能) 鱸包丁 善竹 隆司  
(狂言) 夕顔 片山九郎右衛門  
(能) 海士 橋本 忠樹